



2025年11月28日  
朝日生命保険相互会社

東京大学との社会連携講座「糖尿病・生活習慣病予防講座」において  
共同研究員として派遣されている当社職員が共著者となった研究論文2本が  
医学誌に掲載されました

朝日生命保険相互会社（代表取締役社長：石島 健一郎、以下当社）と国立大学法人東京大学（総長：藤井 輝夫）は2018年4月より同大学大学院医学系研究科に社会連携講座「糖尿病・生活習慣病予防講座」を開設し、日本国民の健康増進に貢献することを目的に、医療ビッグデータの解析やICTの活用を通じ、『生活習慣病の予防と重症化防止に資する効果的モデルの構築にむけた共同研究』を行っています。

このたび、社会連携講座「糖尿病・生活習慣病予防講座」の研究活動の一環として、共同研究員として派遣されている当社職員が共著者となった研究論文2本が、査読付き医学誌（専門家による内容の審査を経て掲載される学術誌）に掲載されましたので、お知らせします。

■ 社会連携講座の実績

当社と東京大学は、2018年の講座開設以来7年間にわたり継続的な共同研究を実施しており、直近では、2025年度に6本、2024年度に3本、2023年度に5本の論文が研究成果として医学誌に掲載されています。（2025年10月8日現在）

（共同研究概要図）



## ■ 今回の研究内容

### ① 「糖尿病に対する定期受診と心血管疾患リスクの関連」

健康診断データを含む全国規模のデータベースを使用し、糖尿病を持つ方を研究対象としました。研究では、定期的に通院している人は定期的に通院していない人と比べて、心血管疾患リスクが低いことと関連していました。本研究成果は、今後の医療政策への提言などにも役立つと考えられます。

### ② 「日本の民間がん保険加入者におけるがんサバイバーの相対生存率について」

民間保険データを使用し、がんサバイバー（がん罹患経験者）の長期生存率と 2 回目のがんリスクを解析した貴重な知見が得られました。本研究は、民間保険データを活用した研究として意義があります。

※詳細は別紙をご参照ください。

当社は引き続き東京大学との共同研究に取り組み、研究成果を活用した商品・サービス開発を行うことで健康長寿社会に貢献して参りたいと考えております。

以 上

【別紙】 研究論文の詳細

①「糖尿病に対する定期受診と心血管疾患リスクの関連」

掲載誌：Diabetes, Obesity and Metabolism（オンライン版：5月19日）([リンク](#))

論文タイトル：Adherence to physician visits for diabetes care and cardiovascular disease risk: A retrospective cohort study using an administrative claims database

概要：心血管疾患（CVD）は糖尿病を持つ方の主要な死因となる合併症であり、合併症予防には血糖管理などを含む包括的治療が不可欠である。これまでは、糖尿病への治療アドヒアランス（定期通院など）が心血管アウトカムにどう影響するかを示した研究は限られている。そのため、本研究では、健康診断データを含む全国規模のデータベースを用い、糖尿病に対して定期的に通院することが CVD リスクとどのような関連があるかを検討した。具体的には、JMDC 社のデータベースを用いて、後ろ向きコホート研究を実施し、20～60 歳の糖尿病で健診データ（HbA1c 6.5%以上）のある 95,788 名を研究対象とした。定期通院をしているということを、健診後の 1 年間において通院の間隔が最大でも 6 か月未満となる頻度で通院していることと定義し、定期通院している群と定期通院していない群で比較した。既存の危険因子を調整し解析した結果、定期通院している群は低い複合アウトカム（心筋梗塞、脳卒中、死亡のいずれかの発生）のリスクと関連していた。今回の研究は、定期的な通院は CVD の予防に有用である可能性を示唆する結果となった。

著者：Akira Okada, Yusuke Otsuka, Reiko Inoue, Yohei Hashimoto, Kayo Ikeda Kurakawa, Hideo Yasunaga, Masaomi Nangaku, Toshimasa Yamauchi, Satoko Yamaguchi, Takashi Kadowaki

②「日本の民間がん保険加入者におけるがんサバイバーの相対生存率について」

掲載誌：International Journal of Clinical Oncology（オンライン版：9月9日）([リンク](#))

論文タイトル：Relative survival among cancer survivors enrolled in private cancer insurance in Japan, using the internal insurance-enrolled population as the reference

概要：日本において、民間のがん保険に加入しているがんサバイバーにおける相対生存率（RS）に関する解析を行った論文は限られている。さらには、がん罹患から一定期間後に発生する再発等を含めた2回目のがんリスクについても明確になっていない。そのため、RSを朝日生命社のがん保険加入者人口を基準として解析した。加えて、がんサバイバーの2回目のがん罹患リスクを評価するために、最初のがん給付金受給から3年以上給付金を受けていない個人に対してその後の給付発生率を評価した。次世代医療基盤法に基づく認定匿名加工医療情報作成事業者にて匿名加工処理を行った朝日生命社の保持している保険加入情報と支払情報を含むデータベースを東京大学に第三者提供の上、研究に着手した。具体的には、朝日生命社のがん保険に加入している15～79歳のがんサバイバー8,846名（上皮内がんを含む）を対象に分析を行った。今回の研究の結果は全国のがんサバイバーに直接一般化できるものではないが、民間保険加入者データを使用の上、がんサバイバーの長期生存率と2回目のがんリスクを解析した貴重な結果となった。

著者：Makoto Hiraoka, Hayaka Uekusa, Akira Okada, Reiko Inoue, Kayo Ikeda-Kurakawa, Yusuke Otsuka, Daisuke Namiki, Ryuichi Yamamoto, Toshimasa Yamauchi, Masaomi Nangaku, Kazuhiko Ohe, Satoko Yamaguchi & Takashi Kadowaki

①、②の研究は、社会連携講座「糖尿病・生活習慣病予防講座」に所属している、あるいは過去に所属したことのあるメンバーが中心になって行った研究です。

以 上